



盛岡市プレスリリース

～ひと・まち・未来が輝き 世界につながるまち盛岡～

令和4年1月21日

盛岡市 遺跡の学び館

市政記者クラブ加盟社 各位

盛岡市遺跡の学び館第39回埋蔵文化財調査資料展「盛岡を発掘するー令和3年度調査速報ー」と関連事業「令和3年度調査成果報告会」を開催します

このたび当館では、第39回埋蔵文化財調査資料展「盛岡を発掘するー令和3年度調査速報ー」を開催します。本展では、今年度に当館が発掘調査した遺跡について、最新の調査成果と出土資料をいち早く紹介するものです。また、関連事業として「令和3年度調査成果報告会」を実施します。

つきましては、周知広報についてよろしくお願いいたします。

記

【名称】 第39回埋蔵文化財調査資料展「盛岡を発掘するー令和3年度調査速報ー」

【開催期間】 令和4年2月5日（土）～令和4年5月22日（日）

※入館料 大人200円・小中学生100円

【場所】 盛岡市遺跡の学び館 企画展示室（本宮字荒屋13-1 TEL019-635-6600）

【関連事業】 令和3年度調査成果報告会

発表者：当館職員

日時：令和4年3月6日（日）13：30～15：30

場所：当館研修室

報告遺跡（予定）：新茶屋遺跡・下永林遺跡・国史跡 盛岡城跡など

定員：40名（入館無料）

募集方法：往復はがきに講座名・住所・名前・電話番号を記入の上、
2月25日（金）必着。定員を超えた場合は、抽選とする。

盛岡市遺跡の学び館

〒020-0866 盛岡市本宮字荒屋13-1

TEL 019-635-6600 FAX 019-635-6605

担当：杉山一樹・今松佑太・千葉貴子

盛岡を発掘する

— 令和3年度調査速報 —



百目木遺跡発掘調査風景

【関連事業】 令和3年度調査成果報告会
日 時 令和4年3月6日(日)13:30~15:30
会 場 当館研修室(定員40名)
報告遺跡 新茶屋遺跡、小屋塚遺跡、下永林遺跡、二又遺跡、
盛岡城遠曲輪跡、盛岡城跡(予定)
入場無料、往復ハガキにて事前申込みが必要

会期 令和4年 **2月5日(土)~5月22日(日)**

会場 盛岡市遺跡の学び館 企画展示室

【開館時間】 9:00~17:00 (入館は16:30まで)

【休館日】 毎週月曜日(祝祭日にあたる日の場合は翌平日)、毎月最終火曜日

【入場料】 一般200円(団体20名以上160円)、小中学生100円(団体20名以上80円)

※小学生未満、市内在住65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方とその付き添いの方は無料

【交通案内】 JR東北本線、JR東北新幹線「盛岡駅」から車で5分、徒歩20分

東北自動車道「盛岡IC」か「盛岡南IC」から車で20分

岩手県交通バス盛南ループ200「総合プール前」、「原敬記念館前」、「県立美術館前」バス下車
徒歩10分

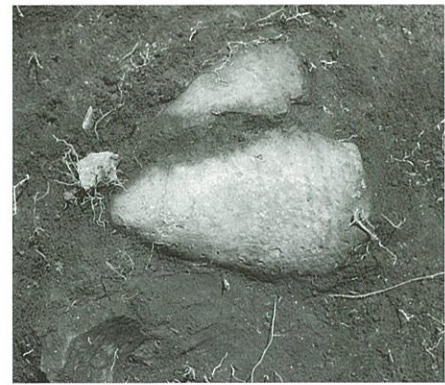
【問合せ先】 〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13-1 TEL019-635-6600 FAX019-635-6605



新茶屋遺跡 (山岸・第6次調査)

縄文時代早期～前期を主体とする遺物包含層などが確認されている遺跡です。
今回の調査では、縄文時代早期・前期・後期の遺構・遺物が発見されました。
調査区中央付近では縄文時代前期の堅穴建物跡を確認し、周辺からは繊維を多量に含む土器が発見されました。

中央東辺部では、縄文時代早期前葉から中葉(約8,500年前)にかけての土器・石器が発見されました。
南東部では、縄文時代後期の配石と土坑が集中して確認されました。配石は、1m前後の円形で、内部には火をたいた痕跡を示す焼土が確認されています。配石周辺からは直径60cm前後の土坑が確認され、内部には人の頭ほどの石や土器が人為的に埋められていたことから、祭祀的な意味を持つ土坑である可能性があります。



早期土器出土状況



粘土採掘坑

小屋塚遺跡 (大新町・第45次調査)

縄文時代中期の堅穴建物跡のほか、直径2mを越えるフラスコ形土坑(貯蔵穴)が多数確認されている遺跡です。

今回の調査では、縄文時代前期の堅穴建物跡と縄文時代中期の土坑(フラスコ形)が確認されました。土坑は貯蔵穴と思われる土坑(フラスコ形)と粘土採掘坑と思われる土坑で、粘土採掘坑からは、良質な粘土が多量に発見されました。隣接する大館町遺跡では、おびただしい量の土器が発見されており、今回発見された粘土採掘坑は、同遺跡で使用された土器を採掘するための粘土を採取した遺構である可能性があります。



下永林遺跡 (津志田・第10次調査)

古くから蝦夷の塚があったとの言い伝えが残り、昭和10年(1935)には耕作中に蕨手刀が1振出土しました。発掘調査の結果、奈良～平安時代の群集墳(墓域)であると判明し、塚(墳丘)の周りに溝を備えた「円形周溝」が現在33基確認されています。古代の堅穴建物跡が確認されていないため、当時この辺り一帯が墓域・祭祀域として利用されていたと考えられています。

第10次調査でも円形周溝が確認され、その中に主体部(遺体を埋葬する部屋)を有する円形周溝も見つかりました。主体部は墳丘上ではなく地面を掘りくぼめて構築されていることが調査により判明しました。また生活域と墓域・祭祀域を区分するための区画溝と考えられる遺構も見つかっています。



円形周溝



カマドに重ねて伏せ置かれた坏

二又遺跡 (下飯岡・第16次調査)

奈良～平安時代の堅穴建物跡や掘立柱建物跡などが見つかった集落跡です。
今回の調査は、遺跡の北東部分にあたり、平安時代の堅穴建物跡が4棟見つかりました。RA30堅穴建物跡は、1辺5m程の大きさでカマドが東壁に作られていました。カマドは壊され、中央部には土師器やあかやき土器の坏3個が重ねて伏せ置かれていました。同じく東壁にカマドを持つRA32でも排煙施設である煙道からあかやき土器の坏が出土しました。堅穴建物を廃絶する際に行われた「カマド納め」の風習があったのでしょうか。



国史跡 盛岡城跡 (内丸・第37次調査)

盛岡南部藩の居城として江戸時代に築かれた平山城です。
三ノ丸北面石垣は城内の中でも膨らみが大きく、構築時より50～70cm以上も膨らんでいることから、今年度から石垣の解体・積み直しの修復工事を行っています。解体にともない石垣の内部構造や、石垣を構築する築石本体の調査を行いました。
さらに本丸地区では、三重櫓台上面の追加調査と、本丸南部石土居の確認調査を行いました。



石垣内部状況